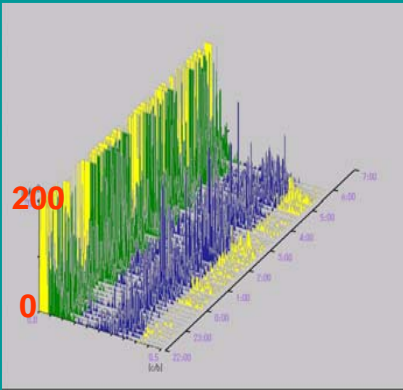
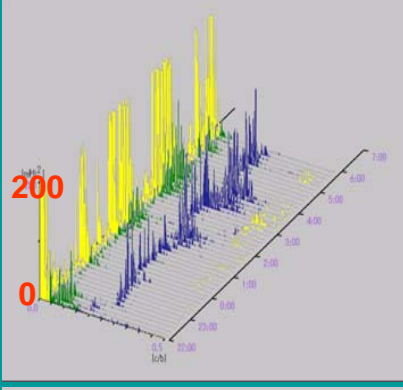
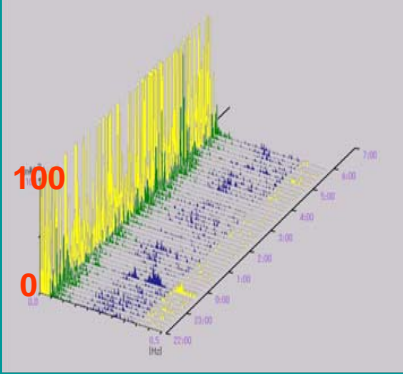


山下分類とパワースペクトル解析による画像情報との関連

山下分類	画像情報	LF、HF成分	診断名	薬物療法
パターン 2		LF: 亢進 HF: 亢進 LF/HF > 1	心因反応 (適応障害 などを含む)	抗不安薬 を優先的 に処方
パターン 3		LF: 低下 HF: 亢進 LF/HF < 1	抑うつ状 態が改善 した状態	三ヶ月間 を目安と した維持 量を処方
パターン 4		LF: 低下 HF: 低下 LF/HF > 1	気分障害 (うつ病)、 ことに生 氣的うつ	抗うつ剤 を積極的 に処方

パターン2は、パターン3に比較しますと、LF、HF成分がともに亢進する一方で、パターン4は、逆に低下します。その反面、LF/HFは、パターン2とパターン4が1以上を呈しやすいという共通点があげられます。

「LF/HFが1以上を呈しやすいパターン2、パターン4の場合」

パターン2: LF、HF成分がともに亢進しながらも、LF成分の亢進程度がHF成分より優勢であるためです。

パターン4: 両者の成分がともに低下しながらも、HF成分がLF成分に比較して、より低下することがその理由にあげられます。

つまり、“こころの疲労”であるパターン2や4の抑うつ状態に陥ることにより、脈拍数(心拍数)は、抗うつ剤や抗不安薬の服用の有無に関係なく、速くなる方が多いように思えます。